



JAPAN  
MARROW  
DONOR  
PROGRAM

## 安全情報

平成17年 8月24日

(財) 骨髄移植推進財団  
認定施設連絡責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会

### 採取時挿管困難となった事例について

このたび、非血縁者間骨髄ドナーに、骨髄採取時（麻酔導入後）挿管困難となった事例が報告されました。

採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

#### <経過>

採取当日、風邪症状・咽頭喉頭違和感なく、術場へ入室。麻酔科医師が静脈ルートを取り、挿管準備を開始、アンダーマスクでの人工呼吸でも、口腔・気道・肺に異常認めず。

気管内挿管を数度試みたが上手くいかず、麻酔科教授・助教授が診察したところ、声門が狭くなっている（喉頭浮腫のような炎症性病変を疑う。）周辺に炎症が見られるが、その原因は不明。抜管後に気道狭窄をおこすような炎症であれば、再挿管が困難と予測されたため、無理な挿管を中止し、耳鼻科受診とした。

#### <対応>

耳鼻科受診の結果、耳鼻科医師は、浮腫ではなく解剖学的な挿管困難例ではあるが、病的なものはないとの診断であった。術場にて、気管支ファイバーも用意した上で、スタイレットを用いた通常の挿管に成功し採取を実施した。

抜管後、呼吸器症状・気道閉塞などの異常所見・症状を認めなかった。

#### <見解>

解剖学的に声帯が喉頭鏡で直視できず、非常にまれな挿管困難例で、生まれつき声門が非常に狭い（声帯が小さい）方のものであった。

外見・体表からの診察では小顎症でもなく、挿管時の異常を通常の診察で事前に見つけることや、挿管困難をあらかじめ予測することは不可能であった。

当財団としては、当該事実を各採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すこととしました。

以上をご確認の程、お願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会  
(事務局 担当:折原)  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町 3-19  
廣瀬第2ビル 7階  
E-mail: orihara@jmdp.or.jp